

第144回役員会・第64回経営審議会 議事要録

日 時：2023年6月15日（木）14：00～15：40

会 場：北九州市立大学 北方キャンパス 本館 E-701会議室（オンライン併用）

出席者：津田理事長、柳井副理事長、白川理事、古川理事、漆原理事、上江洲理事、中本理事、
井上委員、瓜生委員、甲木委員、久保委員、小林委員、藤田委員、松永委員

オブザーバー：中野監事、福田監事、後藤副学長

議 案

- 1 2022年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
- 2 2022年度計画および第3期中期目標期間に係る自己点検・評価について
- 3 学長選考会議委員の選出について

報 告

- 1 大学改革支援に関する助成金について
- 2 2022年度卒業生の就職状況について
- 3 2023年度入学者選抜試験の結果について
- 4 名誉教授の称号授与について
- 5 2022年度広報活動報告及び2023年度広報計画について

議案1 2022年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

- * 財務諸表（案）、決算報告書（案）、事業報告書（案）のほか、2022年度は第3期中期目標期間の最終年度の決算であるため、積立金525,627千円を第4期中期目標期間の財源に充てることについて、北九州市長に承認申請することを提案。

<質疑応答> なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし。

議案2 2022年度計画および第3期中期目標期間に係る自己点検・評価について

- * 「令和4年度計画及び第3期中期目標期間（平成29年度～令和4年度）に係る自己点検・評価報告書（案）」について提案。

<質疑応答>

[委員]

教育の評価に関して、どのように取り組んだかの記述はあるが、その効果としての学生の満足度等は把握されているか。

[事務局]

授業評価アンケート、地域活動のアンケート調査等を行い、その結果を指導等に活かしている。

[委員]

教育 No. 7 の記述において、外国語学部英米学科の女性教員比率が高いとあるが、どのくらいなのか。

[事務局]

外国語学部英米学科の女性教員比率は2023年4月時点で47%である。

[委員]

外国語学部に限らず、女性研究者の比率を高める努力をしていただきたい。

[委員]

今後、社会人の学び直しが注目されていく中で、i-Design コミュニティカレッジは好評だが、一方で、大学院定員充足率には課題があると思う。社会人への情報発信は i-Design コミュニティカレッジと大学院で同じ方向を向いているのか、それとも内容によって、別の方向を向いているのか。

[事務局]

定員充足の方策として、学内では、研究科の名称から教育・研究内容が分かりにくいということがあります、分かりやすい名称に変更してはとの意見もある。また、学費の金額は変わらず通常より長い期間をかけて学べる長期履修制度を導入してはとの意見もある。

情報発信については十分ではなかったため、研究科のホームページを見た方々に関心を持ってもらえる内容の動画を掲載するなど、しっかりとPRしていくことが必要であると考えている。また、社会人への積極的な広報活動が必要とも考えている。新たな中期計画において、大学院全体の見直しも含めて取り組んでいきたい。

[副理事長]

現在、各研究科の志願者の推移を分析しており、専攻によっては志願者数が上昇しないものや減少しているものもある。実際の志願者数の動きを見ながら、社会のニーズに合わせる形で制度を作っていくたい。

[委員]

中期計画 No. 49 の中で、2019年度までに地元就職率28.5%を目指すとするが、約20%で進捗状況を順調とするのはいかがなものか。もっと高い目標を掲げて高い結果を出すようにしてほしい。

[副理事長]

2015年度に採択された文部科学省の補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」で地元就職率を30%に伸ばすという取り組みに責任者として6年間携わってきた実感として、地元就職率は20%強が上限ではないかというのがあった。理由として、まず、産業構造が転換する中で、地元就職に強い教育・福祉・医療・看護の分野に、本学の学部構成が合っていないということがある。また、学生が複数の内定を獲得しても大手の企業を選択してしまうため、地元企業の採用力を上げる必要もある。

地元に残りたい学生がいても、学部と産業構造のミスマッチがあるため、本学としても、情報産業や商業などバラエティあるものを北九州市と連携しながら作っていくことが必要ではないかと考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし。

議案3 学長選考会議委員の選出について

* 経営審議会から選出する学長選考会議委員3名のうち2名が任期満了となったため、新たな委員2名の選出について提案。

【議長】学長選考会議委員の選出について、企業経営の豊富な経験を持つ白川理事と、昨年度に引き続き、北九州市出身で地域の状況に詳しい井上委員を提案する。

<質疑応答> なし

【議長】経営審議会からは白川理事・井上委員の2名を選出することでよろしいか。

【委員】異議なし。

報告1 大学改革支援に関する助成金について

* (独)大学改革支援・学位授与機構に対して、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けた助成金の申請書を提出した旨を報告。

<質疑応答>

[委員]

報道によると、補助金の採択に向けての倍率はかなり高いが、この補助金を取れるのと取れないのでは新学部の実現面でかなり違ってくる。

学生の募集の観点からすると、2017年度に日本で初めてデータサイエンス学部ができ、その時は好調だったが、データサイエンスだけでは学生が集まらなくなっている。データサイエンスと専門分野を掛け算して行った方が良いと思われる。

日本ではデータサイエンスを行う人とビジネスプロセスが分かっている人が別々になっており、これがDXが進まない要因となっている。ビジネスシーンとビジネスプロセスが分かっている、デジタルも分かる人材の輩出ができるようになれば、これを北九州市の産業構造の転換というところに組み込んで進めていければ、素晴らしい取り組みになると考える。

[委員]

一つ注意しなければならないのは、この分野は発展途上であり毎年新しいテーマが出てきているので、申請で訴えるときには、柔軟に対応できる仕組みを大学として考えておくことが重要である。そのためにも、企業との連携によってニーズを反映できる仕組みを持つことや、高卒の学生だけでなく、リスキリングを行う社会人学生も受け入れることは、申請において訴える力があると思う。

[委員]

今回の構想が学長のリーダーシップのもとで北九州市立大学から出てきたということ自体、非常に画期的な意義あることである。北九州市自体の浮沈をかけた大きな勝負に打って出たものであり、首都圏・近畿圏などに人材を取られないように、九州全体の人材を厚くするという意味で大変重要な提案であるので、北九州市立大学のみならず北九州市自体の最重要テーマと位置付けて、ぜひ北九州市に後押しいただけるようにと、経営審議会委員から北九州市役所に対して強い声があったことを伝えていただきたい。

[委員]

非常に良い話だと思う。確かにこの分野はどんどん変わっていくところがあるが、企業家から見ると、根本的なことをしっかりと教育していただければ人は育っていくと思う。そのため、あまり頻繁に学部学科の中身が変わるのはどうかと思うので、このあたりを十分配慮しながらやっていただきたい。この事業の申請者は相当多く、競争が厳しいため、しっかりと提案書を作らなければ勝てないと思うので、頑張ってください。

[理事長]

企業が企業立地をしようとしたときに人材供給力というのはものすごく気になるところである。このような目に見える形でデジタル人材がいるということは本当に強みになるので、北九州市のためにもぜひ実現していきたい。

報告2 2022年度卒業生の就職状況について

* 学部卒業生の就職率が99.3%（対前年度+0.6ポイント）、地元就職率が20.0%であったこと等を報告。

<質疑応答> なし

報告3 2023年度入学者選抜試験の結果について

* 2023年度の一般選抜の実施状況、入学者の男女比率や市内高校出身者率等の状況を報告。

<質疑応答>

[委員]

全国的に見ると現在、国立大学も含め、多くの大学が年内入試での入学者の獲得にシフトしていている。北九州市立大学でも年内入試での入学者の獲得をどのように進めていくか、今後に向けて検討が必要かと思う。

報告4 名誉教授の称号授与について

* 名誉教授の称号を9名に授与することを報告。

<質疑応答> なし

報告5 2022年度広報活動報告及び2023年度広報計画について

* 2022年度の入試広報活動や、志願者数増加に向けた2023年度の広報戦略の概要について報告。

<質疑応答> なし